

2026/2/15 学校再編地域説明会 議事録（詳細）《会場：農業センター・ホール》

14：03 開始、16：22 終了（会議時間：2時間19分）

参加者：22名

（事務局）

本日の説明会に多くの方にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

教育委員会としましては、子どもたちの教育環境をより良くするためにということで学校再編についてご説明させていただいております。

説明を聞いていただいた後に、また皆様からご意見を頂戴したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

それでは早速私の方から大体15分程度でまずはご説明をさせていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

すいません着座にて失礼いたします

まず初めに、この地域説明会等をここで実施していますのも、ご意見として12月の議会で否決があったのにとこのところのご意見もございました。

そこにつきましては、そもそも否決の理由として、説明が不足していた部分があるところを受けまして、今回改めて明確に伝えられてなかった部分等を具体的に、地域の皆様に説明をさせていただきたく、こういった場を設けさせていただきましたので、どうぞお聞きいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

では、こちらのスライドに沿って説明いたします。

（※説明部分省略）

ご覧いただきましてありがとうございました。

説明は以上となりますので、この後はいろいろと皆様からのご意見でありますとか、

ご質問がありましたら、ここでお受けできればと思いますので、よろしく願いいたします。

それではお願いいたします。

はい。

【地域・住民・その他】

まず今日の説明会ですけれども、上富小の良いところは1枚に示されただけですよ。

それ以外の9割以上は再編についての説明だったと思います。それは急ぎ過ぎではないでしょうか。去年12月15日に議会で否決されてますよね。

それなのに、この説明会で「説明を尽くした」ことにして、また上程しようというお考えなのではないですか。それはちょっと乱暴な話だと思うんです。

それから反対の署名がたくさん届いたはずですが、それに対してどういうふうにお考えなのか知りたいです。

あとは単純に地域をコストカットして、その費用対効果で切り捨てるという政策を進めてるんじゃないでしょうか。私にはそう思えてなりません。

こんな簡単に学校の統廃合を進めていくというのは、あり得ないと思います。

(事務局)

はい。ありがとうございます。

一番初めのご質問で、上富小の良いところというのがこちらのスライドでよろしいですか。はい。

もちろん上富小学校の小規模のよさというところはありますし、我々といたしましても、地域やあとは学校に出向いていろいろ意見を受けていながら、小規模校のよさというご意見もいただいております。

その中で先ほども申し上げました通り、教育委員会といたしましては、今後の子どもたちに求められる資質能力として、学びのあり方というところを考えたときに、やはり児童数が今後減っていく見込みである、また、一クラスの中の男女のバランスというところもありますので、そういったところがやはり課題になっていくのではないかと考えているところです。学びというところが大きい問題というところを考えまして、学校再編でこうした課題を解決しようというふうを考えております。

また、もちろん上富地域のよさというか、地域の中の学校であるというご意見も受けておりますので、存続する可能性というの、説明の冒頭でお話しております、小規模特認校でありますとか、学区自由制というのも検討させていただきました。

ただし、先ほど申し上げました通り、先行事例を見ますと、問題の解決というのはやはり難しいというところ。学校再編による課題解決が一番可能性としては高いという認識で、我々としてはこういう説明を繰り返させていただきながら、ご意見をいただいているところです。

反対のご意見や署名もたくさんいただいております、そういったところも踏まえながら、どういった形で進めていくのが一番子どもたちにとっていいのかということを考えて、このように説明をさせていただいています。

(事務局)

先ほどもう一つ、費用対効果やコストカットということでご質問いただいたところでございます。

これにつきまして、教育委員会では子どもたちの教育的効果というものを第一に学校再編等審議会でも協議の方を進めて、様々な検討を進めてきたところでございます。

もちろん町の財政面というのも非常に大事ではあるんですけども、それ以上に子どもたちの教育的効果というところで、一クラスの中の男女のバランスですとか、あとは小規模を解消することで様々な可能性が見出せるというところで、そういったところを中心に検討を進めてきました。そこをぜひご理解をいただければと思います。

【地域・住民・その他】

小規模校のよさをもっと重く受け止めた方がいいのではないですか。

いつ上程するか知りませんが、もしこの3月に考えているとすれば、1月2月の説明会で説明責任を果たしたということにするということであるとすると、これは先ほど申し上げましたけど、議会を軽視ということになると思うので、もっともっと話を聞く機会を設けるべきだと思います。

(事務局)

はい。そこはおっしゃる通りで、話し合いの機会というか、地域の方のお話を伺う。

あと、説明がまだ不足していたというのは前回の議会でもたくさんご意見をいただいたところですので、我々といたしましても、引き続き地域の皆様からしっかりとご意

見を受けて、真摯に対応していければというふうに考えております。ありがとうございます。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。

今、反対の署名も、というご意見も頂戴したところです。

我々の方で把握させていただいてるところで、やはり一つが、1人1人のお子様をしっかり見てあげることができる本当にいい学校であるというようなご意見をいただいております。

1人1人の子どもたちを本当によく丁寧に見てあげられる。そういうよさがある学校というのが上富小学校であるということは、我々の方も認識はしております。

しかしながら、説明でもございましたが、教職員の数が増えてまいりますと、加配の教員ですとか、体制がいろいろと増えるというところがあります。

例えば一斉指導型の授業だけではなくて、習熟度に応じたクラス編成をした算数科の授業とか、国語科においては、発表するお子さんが一時間の中で発表を主に学習を深めていく子どももいれば、中には4人で相談をし合う。今1人1台端末の時代ですので、こんなものを利用しながら、お互いに意見交換をしたり、比較類推したりしながら自分たちの考えを深める、そういった授業が可能になるというのもあります。

1人1人に丁寧に応じた指導だとか支援も可能になってまいります。

また、上富小は地域に根付いた学校である、そういう意見も多く頂戴しております。

世界農業遺産に認定された、貴重な地域教材が根付いた学校でございます。

今年度も行ったことですが、三芳小学校と上富小学校の子どもたちがお互いの意見を発表し合う、交流する場面なども行っております。

こういった機会を小学校同士で取り組んでいる中で、今町内全体の小中学校で上富小学校のよさを教材化して取り組んでいく、そういう学習が展開されてきております。

そうした意味でも地域の良さを生かした取り組みというのは、引き続きどの学校でも根付いていきますし、また、もしこれが統合という形になった場合には、いま上富小で行っているいもまつりですとかお囃子、こういういい教材は一緒になって取り組む。また、三芳小学校ではビオトープとか環境教育を実施しておりますので、こうし

たよさをお互いに共有しながら学びを深めていこうところになります。

そうしたところも含めてご理解いただけるとありがたいというところがあります。

【地域・住民・その他】

広報を見ると、議会で否決されて、そこでこうした説明会をすると。

それで、三芳町の5分の2は上富地域なんですよね。

そういう中で他の町や市では、もう10年も前から人口が増えるように計画して廃校にならないように努力してるところもあるんですよ。

そういうことを参考にしたら、上富に人口が増えて子どもたちが増えるかということも考えないといけない。

私もここから三芳小学校の方まで歩いて通っていた人間だから、それは大変なことですよ。

それと、1区の集会所で拾って、バスで三芳小学校まで繋ぐと、1時間かかりますよ。

渋滞もしてますしね。

そういうことよりも、この地域は町の5分の2あるんだから。

まあ、名前を出すとあれだけど、富士見市の南畑小学校というのは、将来こういうふうになるんだなっていうことを気がついて、10年も前から、申請すると家が建つようになった。行政もお金かからないんですよ。区画整理じゃないから。それで、ぽつぽつと家が建つようになって、子どもも少しずつ増えている。

だからうちの方だって、それを真似しても今から間に合うから、申請できるようにしたら、そうすれば自然と子どもが増えますよね。

なんでかっていうとね、歩いて帰るのは大変なことなんですよ。今はね昔と違って平和じゃないから。襲われたら大変だしね。

それとあと多福寺の住宅の右側の住宅ってね、売るとね、家壊しちゃうと再建できないんですよ。

ああいうところをきめ細かく家が建つようにすれば、必ず子どもが増えてきますから。

なにしろ5分の2あるんですよ。

【保護者】

大体それは面積の話ですよ。

【地域・住民・その他】

これだけ広いところにある小学校でしょ、世界（農業）遺産でしょ。

それで日本の国も今はね、芋を輸出していますよね。ニューヨークでも焼き芋があつて、そういう感じで日本の名産の芋を輸出しようというところに、後継者はいない、お嫁さんもらうのに小学校もないというのは不安ですよ。

できればここにちゃんと小学校があつて、6年生まで通えるように、あとはもっと家を建てられるような地域にすれば、道路はいっぱいありますからね、みんな許可したらいいんじゃないですか。町長どうですか。

そうすれば絶対に人口が増えるし、子どもも増えていきますからね。

南畑小学校を見ると、家がぼつぼつ建っていますよ。あれを真似すればいいんですよ。よろしくお願いします。

【地域・住民・その他】

改めて私も地図を見て気付いたんですけれども、三芳町の5分の2を占めているところに、最低単位の小学校が一つもないというのはむしろおかしいと思う。

先ほど課長さんが、子どもがたくさん集まれば、多様性のある授業ができるっていうふうにおっしゃってましたけれども、例えば習熟度別に教室を開くとしたら、三芳小学校は教室数が足りるんですか。

やはり子どもの教育レベルに応じて教室を開いてくるのであれば、受け入れる方の学校も教室がそれなりの数がないと入らないのではないかと思うんですよ。

だから、集まればいいんだけど、頭の中で空想で考えてるんじゃなくて、やっぱり現実的に教室があるかどうかということもあるかと思えますし、もし11年度のお子さんが5人ということであれば、昔から複数学年の子どもが一つの教室で勉強しても良いというふうに思うのですけれども、いかがでしょうか。

（事務局）

ご意見ありがとうございます。

三芳小学校の児童数はかなり少子化の影響で減少していて、学級数も減少している状況ですので、教室数に関しては確保することは可能です。

それから、だいぶ今授業の形ってというのが変わってきておまして、一つの学級の中で、個別に学習をしている子がいたり、4人グループで学習をしている子どもたちがいたり、あるいは後ろの方で6人の子どもたちが話をしているというような、いわゆる複線型授業というところがかなり中心になってきています。

そうした意味を考えますと、現状の体制の中で実施していくってところは、可能になってくるかなというふうには思っています。

それからかなり面積的には広い状況でございますが、なかなか今後の子どもたちの見通しを今把握している中で、我々の方も定期的に確認等しているところなんです、やはりなかなか子どもたちが、これは三芳町に限らず全国的な今問題にはなっていますが、全体的にはこの少子化傾向というところがございますので、そうしたところを鑑みますと、やっぱり子どもたちのよりよい教育のためにそこをしっかりと教育環境を提供していくことが我々が大事にすべきかなというところは考えておりますので、そうしたところでご理解いただくと大変助かります。

【地域・住民・その他】

調整区域っていうものに対して、家が建てられないっていうのは一番のネックだと思いますよ。

調整区域で家が建てられないっていうことは、人口が増えない、若い人が来ない。

この間大学の先生が来ていただいてお話を聞いたんですけども、飯能のほうの名栗小学校でも、なんかすごく人数が少なかったそうです。

それを町としてPRをして、子どもが勉強ができるようにするっていうのを、町としてPRしたために、よそから来て家を建てたりいろいろして、空き家があったり、ここでも空き家があると思いますけどね。

そういうふうに入を増やす方向性にするっていうことが、町長さんいらっしゃるから、調整区域が私にはわからないんですけど、それをなくして家が建てられるようにしたら、人口も増えるんじゃないかと。

そうすると、上富小学校もいい学校で、三富新田（の地割）なんかも、よその学校から見に来てるようなことらしいので、いい子どもたちが増えていくんじゃないかと思

いますけど、まず調整区域を無くして家を建てられるようにして、子どもを増やしていく方向性で、町としてもやっていったらどうでしょうか。

【地域・住民・その他】

12日に夜6時から説明会を行ってると思うんですけど、何名だったのかしらと思って。これと同じものを見るのでしたら、ほとんどの方がこの説明を聞いて、この前やったのと大して変わらないんじゃないかと思っちゃうんじゃないかと。

昨年も色々な意見が出ましたよね。例えば今のような人口を増やすとか。上富小の良さがわかる人が、どこからでも入っていけるようなそういう方向性と言うか宣伝をして児童を増やしていくようにしませんか、という話も出ているんですけど、今日の説明を聞いていると、そういうのは一切ないですよ。

本当にもう学校再編ありきみたいなふうに聞けるんですね。

ごめんなさい。12日の夜はどのくらい出たのかということと、それから小学生にも説明会を聞いているんですよ。

小学生の子どもたちは、やっぱり正直にそのまま自然に出ますから、子どもたちはどういうふうに聞いているのか、私たちは直に聞いていないので、その内容もお聞きしたいと思います。

（事務局）

回答させていただきます。まず一つ目のご質問である12日の参加者の数なんですけれども10名の方にご参加をいただいたところでございます。

説明の中身については、こちらのスライドの内容を説明させていただいて、質疑応答を受けるとい、本日と同じようなやり方で開催をさせていただいたところです。

二つ目のご質問いただきました児童への説明というところになるんですけども、2月9日に上富小学校の全学年の児童に対し、学年ごとに説明させていただきました。

その内容としては、6月に一度上富小学校と三芳小学校の児童に意見聴取をしているんですけども、そのときには「楽しみなこと・やってみたいこと」、あと「心配なこと」ということで、「学校が一つになったらどうなるのかな」という質問を投げかけて児童の意見聴取をさせていただいたのですが、そのときに「心配なこと」で預かった中身、それをですね、子どもたちの思いをさらに聞き出しながら、こんな答えを教育委員会として用意しているよ。

例えばスクールバスを用意するとかですね、そういった解決方法を一緒に考えて示した形になります。

それで最後に、「上富小と三芳小が一つになることについてどう思いますか」、という問いの方を投げかけまして、四つの中から選んでもらいました。

一つになることを「良いと思う」「どちらかというが良いと思う」「どちらかという一つにならない方が良いと思う」「一つにならない方が良いと思う」の4つです。

一番多かった答えが「良いと思う」で32.5%でございました。

「一つにならない方が良いと思う」と答えた子が18.8%となっておりますので、まとめますと、「良いと思う」と、「どちらかというが良いと思う」が約6割、「一つにならない方が良いと思う」「どちらかという一つにならない方が良いと思う」と答えた子が4割という結果になっております。

【地域・住民・その他】

今のお答えなんですけれども、どういう状態で子どもたちに説明したのか。

あとこの四つの設問はどうやってそれを作ったかとか、信頼性があるんですか。

今6割はいますとか、32%が「良いと思う」とか言ってましたけど、子どもたちにアンケートとかとるときに、その結果が信頼性があるかどうかというのを、ちゃんと検証したんですかっていうことを聞きたいです。

この質問紙っていうのはどうやって作ったとか、どういう状態で意見を聞いたとか。

内々で教育委員会の中で言うならいいんですけど、こういう公の場で、「何名です」などと言ってしまったら、それは信頼性があるってことになっちゃいますよ。

(事務局)

お答えさせていただきます。

児童への意見聴取については、まず児童たちにこちらが用意したスライドを見せて説明をさせていただきました。

その中身というのが、先ほどご説明したような、6月に行った意見聴取で心配なことということで児童の方に意見を挙げてもらったこと、あとは楽しみなことということで児童の方に挙げてもらったこと、そのあたりを振り返りながら説明をさせてもらいまして、その中で、さらにもっと心配なことがあるとか、三芳小と一つになったらど

んなことが楽しみかなということ、それぞれの学年で意見を引き出して、それについてみんなで一緒に考えてみたというところが主な内容になります。

また、質問紙に関しましては、小学校の低学年1年生から3年生に関しては、ワークシートで、上富小学校と三芳小学校が一つになることについてどう思いますかという質問に対して、先ほどの4つの選択肢から一つ選んで丸をしてくださいという形。

それに対して理由を書いてくださいというような説明をして、それをみんなに書いてもらいました。高学年に関してはGoogleフォームで同じ質問をさせていただきまして、その場で入力してもらって、送信という形で、それを集計した中身になります。今ご紹介させていただいた32.5%や18.8%という数字は、全数調査そのままの結果になっておりますので、特に何かこちらで編集をしたとかいうことは全くございません。

【地域・住民・その他】

じゃあ、この質問紙は誰が作ったんですか。

（事務局）

質問に関しては、こちらの教育委員会の方で、中身は考えさせていただいたところになります。

【地域・住民・その他】

それを例えば心理士に見てもらって、これで大丈夫ですかと確認をしたのかとか。

四つの選択肢しかないじゃないですか。普通そういう質問をしたらそこに、「どちらとも言えない」というのが、あると思うんですよ。だからそういう質問を作ったら、ちゃんと心理士に見てもらって、町にも心理士がいるじゃないですか。

そういうことをきちんとして、出したその結果が信頼性ありますねってということで、公にしてほしい。それなのに、いかにもちゃんとやってみたいに言っていて、どうなんでしょう。

【保護者】

今の発言は信じられないですね。子どもたちがちゃんと答えたアンケートが信用できないということでしょうか。うちの子どもも通っているんですけど、子どもたちが自分たちの意思で回答したアンケートが信用ならないって。

【地域・住民・その他】

そうじゃないですよ。

子どもたちは何の問題もないですよ。

やった側が、そういう質問紙でいいんですかとか、それでちゃんと子どもたちの意見が反映できるんですかっていうのを、私はあの専門的な立場から言ってます。

【保護者】

あの、なんかここにいらっしゃる方たちは、そもそもどういう方たちなんですか。

私は保護者なんですけど、保護者が、顔見る限りは3名ぐらいしか見当たらないんですけど。なんか、私この説明会の3日間のうちにここしか来られる日がなかったので来たんですけど、なんかこんな説明会なんだと思ってびっくりしちゃったんですけど。うちの子どもも今4年生でいますけど、あと高校、中学っていますけど、今の6年生女の子2人だけなんですよ。

その前の今の中学1年生、男の子3人でずっと来て最後4人になったんですけど、6年間女の子2人で生活することって自分のお子さんだったらどう思いますか。

私は嫌です。

なんかそういうこととかを考えた上でこちらの方たちは、一応私は別にどちらでも、うちの子は幸いギリギリ卒業するので影響はないんですけど、ただ何かその2名でずっと6年間いることとか、そういうことをちょっと考えてもらいたい。

小学校がなくなるのは確かに寂しいっていうのはわかるんですけど、子どもたちの環境だとか。

5分の2が上富っていうのもわかるんですけど、それは面積の問題で、それだったら三芳小も含めてみんなで上富を自分たちの地域って思ってくれた方がよっぽどいいんじゃないかなって思うんですよ。

この間、私の子どもが総合学習の発表で、役場で発表させてもらって、三芳小の子たちも同じように落ち葉堆肥農法について発表してくれて、上富小の子も発表して、何か一緒にやれたらすごくいいなって思ったんですよ。

何かあの、大規模校っていうけど、2クラスになるんですよ。

どんなマンモス校になると思ってるんですか。そんなに大きくなるわけじゃなくってなんか今1クラスギリギリ保てる、むしろ保ててないですよ、今の小学校は。

1クラスが10人切っちゃったりとか、来年の小学校も今12人って資料にはなってますけど、蓋開けてみたら10人になったりとか。引っ越していっちゃうので、少なくなってます。

それでもう畑を潰してどうにかって言っても、竹間沢小だって、大きいマンション建っても、そんなに増えてないですよ。

今すぐには結果って出てこないから、今この少ない状態が続いてるのを、放っておいて、そんな何か、将来増えるからって言ったって、子どもたちの成長は待ってくれないですよ。子どもたちの6年間ってすごい大事なんですよ。

だからお年寄りの方々が自分たちが郷土愛もわかるんですけど、三芳小、上富小の方も含めて一緒に、この地域を愛してくれたらいいなと私は思うんです。

何かそのあたりが見えてこなくて、何かこう、ただ反対して何か信頼性だとおっしゃいますけど、その署名とかも、そもそも関係者が署名しているのかもよくわかんないし、本当にそれも信頼性ありますかって思っちゃうんですよ。

私達の小学生の在校生の親たちの間では、もうこれだけ少なくなってる、スキー教室とかも2学年で、行かなきゃならなかったりとか。もう少ないことによる影響が見えてるからしょうがないよねって思いは結構多いんです。

だからちょっと、もう前向きな話をそろそろさせて欲しい。

前向きに話してほしいのに、なんでそんなに何か駄目なんだ、駄目ってなっちゃうんだろう。

上富小でも、統廃合に向けて資源回収をやめていったりとかしています。

いろいろ考えているところで、議会で否決されたから、この説明会にも来てるんですけど、もうそろそろ前向きな議論に移りたいのに、いつまでそれに足を引っ張られなきゃいけないのかなと。

本当に関係者の方たちなんですかっていうのが疑問ですよ。

すいません、長く喋りました。

(事務局)

はい。ありがとうございます。

今、4年生で、実際に今通われている保護者の方のご意見ということで、ありがとう

ございました。

【地域・住民・その他】

今、保護者の方でご意見がありました。

なるほど、と思ったんですけれども、そういった実態を調査した結果を伝えてもらわないと、何もわかんないんですよ。

実際子どもがいる方ですね。

そういう実態をちゃんと把握、資料にしてみんなに説明しないと。

そういうところをもうちよっと工夫して資料を作ってもらわないと。

あとは、なんていうのかな、年配の方と若い方でそれぞれ考え方が違います。

まとめるのは難しいと思いますが、できるだけかみ砕いてわかり易い資料にして、説明会をしないと。子どもを持つ方の意見をみんなに知らしめていかないといけないと思う。

（事務局）

はい、ありがとうございました。

先日学校で行った意見聴取の内容とかっていうのも、こうした説明会の中できちんと伝えてほしいというご意見ですよ。

仰る通りかと思しますので、今後とも対応していきたいと思えます。

【地域・住民・その他】

細かいことになるんですけども、子どもたちにどんな資料を使って説明したのかですとか、このあたりも知りたいと思えます。

ただ、しんばいなこと、（ひとつになることが）どういうことなどと言っても、子どもたちがどれだけ理解したのかとか、質問の選択肢も4つだと言っていたんですが、これについて、私は子どもに「学校でどんな説明があったのか、どうだった」と聞いたんですよ。

そしたら、すごく傷ついて帰ってきて、説明もできない状況だったんですよ。そのあたり、説明をした後に、ちゃんと受け止めてもらえたのかとか、ちゃんと子どもたちの様子を見ていただけたのかとかは、すごく気になりました。

やっぱり、1年生から6年生で受け止め方も違うでしょうし、家で親が学校再編について話をしているのを聞いていて、広報にも合併が決まりました、みたいに載っていて、子どもたちはすごく私たちが知らないところでどんどん決まっていって、「私が今通っている小学校はなくなるのか。」と不安な状態になっている。

統合後の学校にスクールカウンセラーを増やすということでしたが、そこにどれだけ相談に行けるのかなと。まず、今の子どもたちがどんな状況に置かれているのかというのが、すごく大切なことなのかなと、実際に子どもを見ていて思いました。

(事務局)

はい。ありがとうございます。

仰る通りでして、一番は子どもたちが不安を抱えたりとか、傷ついてしまうとかが無いように、もし統合するとなったら、安心してってところが第一かなというふうに我々としても考えているところです。

そのために、この間も子どもたちに意見聴取したときにも、子どもの意見をしっかりと受け止めなきゃいけないということで、すごく対話ということを意識しました。

一方的に説明するわけではなくて、やはり子どもたちから意見をいっぱい出してもらえるように、担任の先生にも教室に同席してもらって、子どもたちができるだけ安心できるような環境で説明っていうのはさせていただきました。

でその中で、スライドの話というのも、今のご意見の中で出てきましたが、基本的には今皆様にお見せしたスライドの内容としては同じようなものなんですけども、やはり発達段階というのもございますので、それを小学生にもわかりやすいような形で文字を減らしたり、わかりやすい言葉に変えたりしながら提示をして説明を進めました。

1年生から6年生までおりますので、あとは、説明したのが指導主事ということで、元々学校の教員だったものが説明しました。

私も実際、4年生と1年生の方に行って説明させていただきましたが、目の前の子どもたちの実態に合わせて、言葉をうまく変えたりとかしながら伝わりやすいように表現して説明させていただきました。

アンケートに関しても、十分に答えられるような時間もしっかりと確保して、子どもには焦らなくていいよということ、自分の言葉で書いてごらんということを説明して

います。

なので、結構そういった形で、（ご発言のあった）怖い空気と言うよりは、子どもたちが自由に意見出しやすい空気をつくって、我々の方で説明させていただいたという認識でおりますので、そういったイメージを持っていただければなというふうに考えております。

第1はやはり子どもたちが安心してというところで、おっしゃる通りかなと思いますので、また今後もこれをいろいろな検討や協議を進めてまいりたいと思います。

【地域・住民・その他】

意見聴取会ってということで、これまで色々な方が色々な観点から感情とか意見を言ったりして、質問もいただいたりとかね。これはとても大事な内容だと思います。

記録されてますか。公開はされてますか。

（事務局）

お答えさせていただきます。

今回、意見聴取会を全9回、保護者会も含めて開催させていただいております。

この内容につきましては、議会への報告、また一部少し集約するような形になるかと思うんですが、ホームページでの公開など、やはり皆様にしっかりと意見をお届けするということが大事だというふうに、我々教育委員会としても認識しておりますので、それはしっかりとお伝えさせていただきたいと思っております。

【地域・住民・その他】

それであれば、今の意見のまとめを何でこの説明会で示さないんですか。

意見とかそういうのがあったら、ここで資料として配ればいいんですよ。

（事務局）

お答えします。1月25日に既に保護者への意見聴取というのを行っておまして、そのときに出たご意見として代表的なものをここでご紹介をさせていただければと思います。

【地域・住民・その他】

資料で示せないんだったら、いいです。

(事務局)

資料として出すということですね、わかりました。

【地域・住民・その他】

資料として出す。それで、できれば、意見に対してどうするということまで出す、そこまで書いてほしい。

(事務局)

承知いたしました。

(事務局)

ありがとうございます。前回4月頃に行った地域説明会等に出てきた意見については、こちらの方で回答という形で説明させていただいておりました、またこの1月末から行ったものについては現在集約中ということでちょっとまだお見せするところまでは整えていないんですけども、実はですね口頭であればお答えできるんですよ。

(事務局)

そうですね。

口頭では説明できるのですが、まとめてから、ということでしたので、ここでは控えさせていただきます。

【地域・住民・その他】

遅いですよ。

(事務局)

はい、申し訳ございません。

【地域・住民・その他】

すみません。元三芳町で小学校と中学校の教員をしました。

上富小学校は、小規模の状態がずっと続いていたかと思います。

ただ、ここへ来て、結構足早にこの統廃合ということで進んでいるということに、私は懸念をしています。

再編等審議会でも、十分議論がされたうえで、反対の意見が結構あったけど、意見を

述べた方の意見をくみ取ったうえで答申が出されたのかなど。

やっぱり教育っていう観点から見て、人数が多いと目が行き届かないのではという根本的な問題があります。

上富小学校はそういう点では、理想的だと思います。

小規模校が続いてって、少人数状態が続いているということは、逆に言えば子どもたちをしっかりと見る教育をこれまで行ってきたわけです。

先日の議会でも、教育長さんもそういった点でいいところだというふうに答弁をされていたかと思います。

だからまず教育の観点からすれば、できれば他の学校も、小規模校にしたらとは言いませんけれども、少人数学級のような形で実現して欲しいし、一つの学級の人数を減らしてほしい。

先ほど出ました、例えば習熟度別学習と言うのも、そもそも習熟度別っていうのは、スタートは、人数が多いから少しでも半分とか3分の1ぐらいに分けてやっていこうっていう、そういう観点から出されてきたもので、一つの案として出てきたというそういう経緯もあるわけです。

そのときは40人学級さらには45人学級という学級定数があったわけですから、そういうのをなるべく少ない人数を見るようにしようと、先生が把握できるようにしようというそういう観点でスタートしたものであって、今の上富小学校ではそれがもう、わざわざこう分ける必要もなくできるよと。それから、子どもたちが対話的な、子どもたちが中心になって発表するような学びもできる、ということになります。

それをまたあえてくっつけてっていうことで、なんていうかその、先ほど小規模校のよさと、メリットデメリットという話がありました。デメリットが多いという話もありましたが、むしろ教育として子どもたちは本当に人格の形成、それが教育の目的ですから。人格の完成を目指すっていう観点で進めるんだったら、ある程度人数は少ない方がいいということが、まず第一点。

そこのところはしっかりと押さえておきたいと思います。

それから先ほど保護者の方ということで、人数が少ないからとか、そういう具体的な問題点が出されましたけれど、その状態で放ってきたのはやはり町の行政の問題であり、少ないのを悪いと言いながら、そのまま見過ごしてきたんです。

それから、上富小学校の児童数が爆発的に増える要素はないという話もありましたが、先ほど話題にもなっていましたが、小規模特認校とかそういう形で子どもを集めて、町内各地から集めてそれをやっていくということもできると思います。

で、しかも三富新田の見学地でもあり、直に見ることが出来ると。これは上富小学校だからできるのであって、いくら町全体の教育の取組にしていくと言ったとしても、元になる拠点校が無くなってしまったら、やっぱり生きた教育ができない恐れがあると思うんです。

それであれば、人数が少なくなるというんだったら、そうならないような施策を、町には進めてほしいと思うし、農業地域と言うことで、これからも町のブランドの一つとして三芳野菜と言うことでしているわけですから。その地に学校があるべきだと。そこを、人数が少なくなって大変だというなら、そこを何とかしようというふうにししないと、上富小学校を統合しちゃえ、ではなくて、少人数の5人とかがづらいというのであれば、町としてはそこを何とかしてもらいたい。

それと、教育はやっぱり本当に人と人との関わりですから、工場生産のようにベルトコンベアに乗っけてどんどんできていくということではないですから。

先生も人間として1人の子どもを見る、子どもも先生を信頼して、その信頼関係を築くには、人数はそんなに多くちゃ困るよと。しかも先ほど三芳小学校っていう話もありました。上富小学校よりも減少率が大きいですよ。どんどんどんどん減っていく。

そのところに併せても、先生の方がそんなに増えるってこともないでしょうし、それはた別の問題になっちゃいますけども、先生ももっと増やしてほしいという問題もあります。

でも上富小学校だからこそできる教育っていうのがあると、それは教育長さんも十分ご承知だと思うんですけど、それを生かしながら三芳町の生きた教育を続けていく一つの拠点として、私は本当にこれからも残してほしいと思います。

前、何かで見た、確か子どものアンケートだったと思うんですけど、統合しちゃうんだよ、だったら三芳小学校の方に来ればいとそういう意見もなんか見たんですよ。

いろんな可能性を考えてほしいです。

まとめになりませんが、人数は、教育者としては1クラスの児童全部を先生が見

て、指導できる。あなたはこうだったよっていうことは引き継ぎながらできる。

そういったことも含めて、小規模校のよさを生かしながら、地域学習、また歴史学習の拠点としての学校としてやはりその上で小学校の価値を私は改めて再認識していただきたい、そういうふうに思ってます

(事務局)

はい、様々な視点からご意見いただきましてありがとうございました。

【保護者】

すいません。3年前に所沢市から引っ越してきました。

皆さんの上富愛がすごい中に来て、今日はちょっとドキドキしちゃってるんですけど僕は引っ越してきて、北永井なので三芳小学校に通うことになるんですけど、まずあの上富の芋街道とか、こういう街並みが、子どもにはいいなと。三芳町に住んでみたいなと思って引っ越しました。

ただ引っ越してくるときから学区の問題にずっと悩んでいます。

ていうのが、三芳小学校に通うというのも距離が2.2 kmあるんですよ。

僕も外で、仕事をずっとやってきてるんですけど、やっぱりもう年々暑くなってきて、下校時間に歩いている小学生を見て、うちの子、2.2 kmちょっと1年生が歩くのはきついんじゃないかと。それでね、ずっと引っ越すのどうしようかと悩んでいてね。でも上富に住んでいる僕の同級生なんかも、とてもいい町だよと言うんで、それで決めました。

今回こういうような再編の話があったので、参加させてもらって、正直そうですね、上富小もすごくいいと思うし、三芳小が上富小に来る、別に僕はそれを求めているわけではないんだけど、三芳町全体でスクールバスを出してとか、全部無償化っていうのは厳しいと思いますが、要は、もうちょっと住みやすいようにしないと人口は増えていかないではないかと思いました。

僕も今住んでる三芳野病院の近くも結構分譲地ができてるんだけど、3年間、更地のままです。僕も仕事で建築やってるんですけど、みんなここから三芳小に通うのはきついよね、っていうのでね。

昔は通っていたんですけど、今はやっぱり昔と気温が全然違うんでね。

これも（未就学児のお子さん）近所に同じ年代の子がいないんで、一人で通うことになると思うんですよ。そうすると、ちょっと心配だよねっていうのはあります。

それで今回合併するにあたってスクールバスっていう話を聞いて、低学年は2キロからっていうのも案があるっていうのを今聞いたんだけど、それだったら、逆に、上富小にうちのを通わせてもいいと思いますね。

だから、上富小がなくなるのが嫌だとかそういう発想じゃなくて、三芳町全体で子どもを考えてっていうのがあれば、もっと他の市から集まってくるとは思いません。

（未就学児のお子さん）これも3歳になって、今年からかみとめ幼稚園になるんですけど、7人しかいないんですよ。それで女の子が一人しかいない。

めっちゃめっちゃかわいそうだなって思っ。

やっぱそういう不安もあるし、こいつは男だからまだあれですけど、その女の子の親なんて、もっと不安だらうなっていうのはあります。

なのでそういう何か、町全体的に考えていい町になってくれたらいいなって思います。そうすれば、僕もアピールできるんじゃないかと。

（事務局）

失礼いたします。北永井から、ということで、ありがとうございます。

【保護者】

場違いですいません。

（事務局）

いえいえ、ありがとうございます。

三芳小学校ではなくて、上富小学校に（お子さんを）、という話が出てきましたが、もう建物の器の都合でそれは不可能です。

【保護者】

さっき見ました。やっぱ大きさが全然違うのはわかりました。

僕も故郷が所沢市の狭山ヶ丘っていうところなんですけど、小学校の統合の話があって、小学校が無くなってしまふかもしれないっていう気持ちがとても理解できるんで

すけど、一番は子どもたちが安全に通えるということではないかと。

(事務局)

そうですね。

学校再編に当たって、スクールバスと言うのはやはり必要であるというふうに認識しております。また、2km以上となったときには、三芳小の子どもにも公平性ということで、そのあたりは検討させていただく課題になってくるかと。

【保護者】

そうなんです。じゃあよかった。実はそのところも気になってたんで。

ありがとうございます。

(事務局)

それで、先ほど〇〇先生（地域の方）から、教育に関するお話がございましたけれども、今まではそれで良かったんです。なぜかという、子どもたちを導く答えが決まっていたんですよ。正解にどうやって子どもが近づくかっていうのを教師が教える。

そういう授業をやっていました。でも、これからの時代はそれじゃ駄目なんです。

【地域・住民・その他】

それはおかしいでしょ。

(事務局)

答えを教えるだけの授業じゃなくて、これからは何があるかわからない世の中です。

【地域・住民・その他】

私はね、答えを教えるために少ない方がいいって言ってんじゃないですよ。

(事務局)

そうじゃないですよ、そうではないんですけれども。

でも、これからも教育というのは納得解を得るという、みんなで話し合っ、多くの人たちと話し合っ、じゃあこういうふうにしていこうねっというみんなの意見を聞きながら、納得解を作っていく。そういう授業に変えていかなくちゃならないんですよ。

それが先ほど複線型って言っていた、子どものやり方、学び方も子どもが決めるんです。先生と一緒に話をし、先生と一緒に教えてもらいたい子は先生のそばに集まるんです。教室の中ですよ。

それで1人でしっかりやりたいっていう子は、1人でやってる子もいるんです。

2人で力を合わせてやりたいっていう子は少人数でやったりするんですよ。

また多くの子でタブレットを使って意見交換しながら勉強したいっていう子は、そういうことをやるんです。これが一つの教室で行われる。

こういう授業が、これから求められてるんです。

【地域・住民・その他】

そしたら先生1人じゃ足りないですよ。

（事務局）

いや、大丈夫です。今もおこなっています。

【地域・住民・その他】

むしろタブレット使うんだったら、小規模学校だって、他の地域の学校と繋がって、そういうことを伝えてやることができるわけですよ。

オンラインで学校と繋がって意見交流したらいいじゃないですか。

（事務局）

今のお話は、オンラインの授業です。

ですけど、オンラインの授業っていうのは、そんな毎日できるわけじゃありません。

そして、日ごろ対面で、子どもと教室の中でふれあう、対面でやらなくちゃ、やっぱり教育は良くなるんですよ。

【地域・住民・その他】

それだけの教育条件が今そろっているのに、検討とか整理が必要です。

（事務局）

今はそういう教育が求められている。やっぱり上富小の子どもたちにもそういう教育を受けさせてあげたいんですよ。

【地域・住民・その他】

受けさせてあげたいって、今だってできてるじゃないか。1人で集中することをやってみるじゃないですか。十分できている。

【保護者】

でもクラス替えできないですよ。ずっと同じメンバーで6年間ですよ。

行けばすぐそこに（三芳小が）あるのに、ずっと同じところでずっとやらなきゃいけないってというのはおかしくないですか。

（事務局）

男女比の問題もあります。

先ほど幼稚園でも女の子1人っていう話がありましたけれども、保護者の方がお話されたように、今6年生が本当に女の子2人です。

1人が休みになっちゃえば、もう本当にその子は1日、女の子1人で過ごす。みんな一緒に遊ぶかと思えますけれども、やっぱり高学年になれば遊びが違って来るんですね。そうすると男の子たちはサッカーとかで行ってしまう。

教室に残るのは女の子、あと先生ということで、本当に寂しい思いをしていると思います。

あと、最初にスライドの中で出ていた課題の中で、男女の偏りっていう、この問題は少人数の場合、結構大きいです。

【地域・住民・その他】

ですからそれは、教育委員会で最初からわかってることじゃないですか。

女子が1人でって、それに対してやっぱり町教委は工夫して欲しいんですよ。

私もあの学校にいましたから、そういうのよくわかります。

女の子が少ないと上の学年と一緒にやったりとか、他の学校と交流したりとかそういう工夫が必要なんですよ。それはやってほしい。見てるんじゃなくて。

だからその統合とかじゃなくて、再編とか、もっと柔軟に考えて、三芳小と上富小で交流して、女子が1人とか2人しかいない学年に対しては、そのスクールバスとかそういうの使って一緒にやりましょうって考えてほしい。

(事務局)

今のは複式学級っていうお話ですか。

【地域・住民・その他】

そうじゃなくてですね。

(事務局)

他の学年と一緒にという話ですね。それは学年によってやる内容が本当に違うんですよ。

【地域・住民・その他】

やることが違う、そんなこと言ってないでしょ。

6年生が女子1人とか2人しかいないんだったら、三芳小と一緒にの授業だとか。

交流したりとか、今例えばの話をするんですけど、そういう子どもたちの現状を教育委員会の先生方はわかってるわけじゃないですか。だからそういうところで工夫してほしいっていうことです。

(事務局)

そうですね。

それで、今はお互いに交流しましょうっていうことはしてます。ただ、それぞれ学校には予定がありまして、それぞれの行事があったり、時間割があったりしている中でも、一緒にやるというのは本当に計画的にやらないとできないことです。

そうすると、何回もできることではないんです。

【地域・住民・その他】

でもずっと1人で、女子2人とかで過ごすよりも、やっぱりたった1回でも交流っていうのをね。そういうのを教育委員会の先生方で考えてほしいんですよ。

(事務局)

はい、ありがとうございます。

たった1回でもってお話ありましたけれども、私たちは日常が大事だと思ってるんです。日常的に交流できれば、それが一番いいんじゃないかと。

【地域・住民・その他】

だからそれをやってくださいよ。

（事務局）

それで学校再編をするのが一番有効であるというふうに考えています。そこをご理解いただきたい。

【保護者】

僕は素人ですけども、今、小学校でも統合したりとか、そういう地域ばかりじゃないですか。

元々三芳小と上富小が集まって、三芳中学校に行くことになるんですね。

今はわかれているからあれだけもう統合が当たり前になってしまえば、それが自然な形になっていくのではないかなと。僕も古い考えなんで、ちょっとあれかもしれないけど、そういう考え方もあるかなと。

これだけ子どもたちがいなくなってしまうと、やっぱり、騒いでいるうちに小学校の6年間が終わってしまっって、自分もこの年齢になっても故郷の友達とかとご飯食べたとかあるけど、やっぱり大人になって、クラスの子が3人とか4人だったら、5人だったらその中でどれだけ交流が作れるのかなとも思うし、女の子が一人だったら、大人になってその子と会うこともしなくなるんじゃないか、どんどん寂しくなっていくんじゃないかと思います。個人的には感じてしまう部分はあります。

僕自身は賛成でも反対でもないんだけど、子どもたちの将来のことを考えれば、どうせ中学校で一緒になるようであれば、もう小学校1年生から一緒の学校で、小学校中学校って一緒に上がっていくのが自然だと思います。

それで、その間に三芳町の方たちで、町のアピールを頑張ってもらって、三芳の学校が少なくなっても、通学には問題ないんだよとか、他の市にアピールすれば、子どもも集まってくるんじゃないかと。

（事務局）

ありがとうございます。

実際、この前上富小の子どもたちに意見を聞いたときにも、子どもから同じように、「中学校になったら一緒になるから、最初から仲が良い子がいたほうがよい」という

意見もありましたので、不安に思う反面、そういう早く交流して友達を増やしたいという思いもあるようです。

【保護者】

そうなんですね。

【地域・住民・その他】

すみません、藤久保に住んでいます。

上富に住んでいませんから、当事者でないと言えばその通りなんですけど、やっぱり学校がその地域にあった方が、大人の言葉で言えば廃校、その言葉が持つ意味、子どもに与えるショックというのを大人たちは認識してるのかということです。

「あなたの学校無くなるのよ。いついつのときに、理由は子どもの数が少ないから」お隣の三芳小学校のところに、あなたたちは向こうの学校の子どもになるのよ、そういうことを聞いて、ずっと「あ、そうなんだ」と納得できる子どもがそうはいないんじゃないかと。

私も何十年も、前に教員をやってましたけれども、何回か在職時に、学区の編成替えとか、学校が無くなるとかで、そういう場面に立ち会うことがありました。

だから、今日も説明がありましたけど、「心のケア」というところがすごく引っかかるんですけど、上富の子どもたちだけじゃないですよ。

今日の説明会を聞いて、私はずっと思っていたんですけど、どうして三芳小の子どものことが一回も出てこないのか。三芳小の保護者の方や、校長先生、先生方の皆さんが、令和10年に上富小学校と一緒に、子どもたちが来るんだよ、と言うことが話題になっていると思うのですが、それに対する反応、私は聞いたことがない。一度、議会の資料が何かで見たんですけど、三芳小のお母さんのアンケートの文章で、大勢の転校生がある日突然入ってくるような、そんな雰囲気は嫌です、って書いてありました。

70人、80人の子どもが転校生として入ってくるなんて、私の教員時代にはそんな経験はないのでわからないのですけれども、要するに今、教育委員会の皆さんは一生懸命考えてやってくださっていると思うんだけど、相手があることですよ、統廃合だから。

でも、今日の説明は廃校のことだけでしたよね。上富小学校が廃校になる、無くなる

んだよ、こういうわけで、それを皆さん納得してくださいねっていう説明だったように私は感じました。

それから、子ども達にも何回か説明されたって、今指導主事の先生から伺いましたけど、「あなたの学校がなくなって、こんなことができるんだよとか、こんな心配があつて、それを大人の私たちはこういうふう考えているんだよ、どう」という聞き方は片手落ちという気がしてならないんですよ。

三芳町で先生をなさっていた方からの発言にもありましたけど、なんでそんなに急いで統廃合を進めるのか。三芳小学校や上富小学校の子どもたち、それにかかわる大人の方たちも、将来どうしても一緒にならないといけないのだったら、こういう訳で一緒にならないといけない、というのをわからないといけない。

子どもは子ども同士で、大人は大人同士で話し合いを重ねながらやっていかないとはいけないんだけど、どっちかが吸い込まれる、上富小は三芳小に吸収されちゃうんだというような受け止め方に聞こえました。

でも、吸収じゃないよね。対等な合併、人数の多い少ないはあったとしても、これから先に一緒になって同じ学校で勉強していこうねっていうのであれば、そういう準備を時間をかけて大人の人たちは作ってあげてほしい。

だけど、子どもがお母さんに「今日説明があつたけど、納得いかなかった」という話が子どもから出るのをそのままにしてほしくないというふうに思います。

今聞いた感想です。

統廃合だから、廃校だけではないということ、大人は考えてあげないと。間に入って振り回されるのは子どもたちですよ、子どもは自分たちが統廃合したいなんて思いませんから、でもしょうがないからそういう俎上に乗って、教育委員会の先生方の話を聞いて、ちゃんと反応して答えた子どもたちはえらいと思いますよ。納得して反応した子も、納得できなかった子も、人それぞれですけど、大人がわかってあげないと、禍根を残すと思う。急がないでほしい。

【保護者】

もう結構やったださっています。

教育委員会の方とか、先生方とか色々やったださってると思うので、割とそんなに子どもたちがすごく納得してないってこともなくて、親の伝え方次第っていうところ

もあるし、今子どもがちょっとそこで野球やってますけど、今シャープス、スカイヤーズ、来年からはホープって、もう今、竹間沢小、唐沢小、上富小、来年から三芳小と、全部の小学校が一緒に野球やるんです。そのくらい人数足りないとやれることが限られてきちゃうので、そのあたりで割と子どもたちは、来年からホープも一緒なんだねとか、結構柔軟です。

それだけ、伝えたくて。

(事務局)

はい、ありがとうございます。

今のご発言のなかで、統廃合ということで、廃校だけじゃなくて、統合の方も、ということでしたけれども、これまでのご意見の中でも同じように地域や保護者の方からもいただいております、大勢の転校生が来るような雰囲気にしてほしくない、あくまでも三芳小学校と上富小学校がいっしょになってよりよい学校を作っていきたいというご意見がありました。

このスライドでもありましたけれども、すでに小小連携とか、そういったことは行っております、転校生がやってくる、ではなくて、よりよい学校を作っていきたいというというのは、私たちも同じ思いでやっておりますので、そこはご理解いただきたいです。

【地域・住民・その他】

ちょっといいですか。

12月の議会の中で、傍聴させていただいたんですけど、ある議員さんが「上富小と一緒にすることで校章や校歌は変わるんですか」という質問をされました。

それに対して、「それは変わりません」と。上富小で何十年と歌ってきた校歌はなくなる、マークもなくなる、そういうところのケアなんですよ。

新しい学校になるんだから、マークとかはあんまり重要な問題ではないと言えそうかもしれないけど、でも校歌とか、ウェアとかはすごく大事だと思うんでね。

そこも含めて新しい学校にするために、教育委員会や町としては何かお考えがあるのかと思って今日の説明を聞いていたんですけど、それはなかった。残念です。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

廃校ということを受けて、子どもたちがショックを受ける、心のケアもこれだけでは、というお話も今ありましたが、我々としても無視できないというか、重要な課題として、準備委員会が立ち上がりましたらそこでもきちんと協議をしていきたいなというふうには思っているところです。

(事務局)

はい、ご意見ありがとうございます。

本当に子どもたちの中からは、楽しみな声と心配な声と両方が上がってきています、様々な思いを抱えています。

実は、先日未就学児の保護者の方、在学されている保護者の方にたくさん来ていただいた説明会があったんですけども、ご意見の中に、これを進めていくのであれば、早く進めてほしい、もうご家庭の中では、すでにそのつもりで準備を進めているのに、12月議会で進まなくなってしまったことで、ショックを受けています、という話も聞いています。

やはり、これから学校に通学される保護者の方の意見もきくと、そういう思いもあるのかなと。で、「いつ決まるんですか」とそういうようなお話をされていた方も、中にはいらっしゃるということです。

そういうご意見も含めて我々としてはよりより方向に進めていきたいなというふうに考えているところになります。

なによりもまず、今社会に求められる能力で、社会の構造というか、スピードがすごく早いです。AIですとか、ICTですとか。本当にこう、学校教育というのも年々変わってきています。教育政策 MOVE プランの中でも「個別最適な学び」「協働的な学び」を重要視しながら、子どもの学びを深めております。

三芳町でも今、探究学習ということで、答えのない課題を子どもたちで協力しながら解決していくことを進めているんですが、これがかなり色々な高等学校でこの学習活動が広がっていて、大学になってくると総合型選抜というのが今入試でもあるところがございます。これについては、単に知識技能だけではなくて、その背景にあるものを自分で読み取って、課題解決したことを答えられるか、表現できるか、子どもたちの学力を育成していかないと、これからの変化の激しい社会の中で、子どもたちが生き抜いていく力を身に着けていかないといけません。こうしたところを鑑みながらで

すね。

ただ、町民の皆様や保護者の皆様の思いというのも大切にしながら、丁寧に考えながら、より良い方向に進めていきたいということふうに思っております。ぜひご理解をよろしくお願いいたします。

【地域・住民・その他】

今日の意見聴取会はどのように記録しているんですか。

それから1.2月に行った説明会、これを受けて次の議会に上程する予定はあるんでしょうか。

(事務局)

全9回の説明会を行っております、これはレコーダーに記録して議事録として文字起こしをしております。先ほど説明したように、皆様にもホームページ等で周知できるように準備を進めております。

【地域・住民・その他】

全ての発言を議事録に書けるんですね。

(事務局)

はい、全ての発言を記録しています。

2点目のご質問が、上程の件ですけれども、3月に議会上程をするかということで、決定事項ではございません。この意見聴取会の様子をしっかりと教育委員会で判断させていただいて、3月以降の上程ということで検討しておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

【地域・住民・その他】

先ほど、あの方とあの方が子どもの数がすごく少なくなっているって、子どもがかわいそうっていう気持ちすごくわかるんですね。本当に自分がその立場になったら、つらいと思います。

でも、今孫が5年生で上富小に通っていて、いもまつりとか、こういう年寄りでも参加できるし、三芳小と一緒になっちゃったらやっぱりあの光景はできないと思うんですね。いつも例えば、ニンジンや大根を取ってくるとか、そういうことをやってくれているんですけど、あまりにも人数が多すぎると今借りている畑も面積が足りないだ

ろうし、せっかく世界農業遺産になってるのに、上富小の屋上から見学にも来ているんですよね。なぜ貴重な資源を残さないのか、予算がないからとかそういうことを話題にされると、じゃあ、町の中で教育についてはいくらかけてもいい、他の予算を削ればいいと思う。せっかく私も上富に生まれて、きちんと区画整理されて、畑があって山林があってというところで。農業やってても、自分で道を歩いて、自転車でも自分の畑に行ける。そういう素晴らしいところです。

だから、先ほど父兄の方が少なくって年寄りばかりっておっしゃいましたけど、そういう思いが強いんですよね。ですからその5人の子どもが何とか10人、今私の孫が12人かな。音楽会にしても一人一人が見えるので、一生懸命練習している。

他の議員さんが上富小に来ると、子どもたちが生き生きしていると、やっぱり30人いるところとは違うとおっしゃっている。

予算がいっぱいあるんだから、今から町が一生懸命、家が建つ、空き家がある、農業地帯を残すような政策をぜひ町長にはお願いしたいと思っています。

5人の親御さんの立場と言うのはよくわかるので、そこをなんとか10人に目標立ててやってほしいと思います。

(事務局)

はい、ありがとうございます。

世界農業遺産の学びについては、これは上富地域だけではなくて町全体の誇りとして、資料にもありますが、教育政策にも位置付けて、町内全ての学校で学びを進めているというところなので、今後再編が進んでいったとしても、三芳小と上富小のそれぞれのいいところを生かし合いながら、それが子どもの心のケアにもつながっていくと認識しておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

【地域・住民・その他】

あの、私はちょっと聞いたんですけど、新道（しんどう）のほうで、あっちの上富の方でもどういう訳か三芳小に行っている人がいるわけですよね。だったら、一つこっちに来れば上富小に行けないこともないわけですから。

ですから、三芳町全体で上富小に行きたいと言え、どこの学校に行きたくても来れるわけでしょう。北永井の人でも上富小に行きたいという人がいれば、そういうふうにすることはできないでしょうか。

(事務局)

はい、ご意見ありがとうございます。

学区自由制の件かなと思いますが、三芳小の子どもの数も減少していくというところで、2校の子どもの数が分かれてしまうと、理想とする教育が行えない、進めていく学びがなかなか難しくなってしまうというところが課題になると懸念しております。学校再編という方法が、学びを実現するためには可能性としては一番高いというふうに考えております。

(事務局)

補足ですが、そういったところは自由学区性ということで、これについても検討はしておりますが、例えば上富小学校に他校から通うというのも、なかなかそうは言っても、色々な検証をしたのですが、上富小に多くの子どもの移動してくるというのは現状として考えにくい。そうしますと、元々の小規模校解消自体には繋がっていかない。例えば何名か来ていただいたとしても、クラス替えが可能になるほど上富小を大きくできるかという、現実には難しいところがございます。

貴重なご意見ではあるのですが、我々が目指す小規模校解消にはつながらないのかなというふうに考えておりましたご理解をいただきたいと思います。

【地域・住民・その他】

今人数のことばかりを言っているから、あれなんだけれど、元々は三芳中学校の信号まで上富で、あそこの住宅の人はみんなここに来ていたんですよ。大人の都合で三芳小学校に行くことになったんですね。だからあまり人数のことだけを言っていると、今まで通っていた人からは「何なの」というふうになってしまう。

上富小があそこまで入ったらそんなに人数は少くない。

先ほどお願いしたように、少し人口が増えるような条例でも作って、時間をおいて、それで間に合わないようだったらまた統合すればいいことだと。

みんな大人の都合でこんなことになってしまった。

【保護者】

今、新道からってどのくらい三芳小学校に通っているんですか。

(事務局)

新道からの児童数が今すぐに把握できていなかったもので、申し訳ございません。

※注釈 後で調べたところ、令和8年2月現在の在校生で8名、1学年1～2名程度

【保護者】

お伝えしたいんですけど、今、年中（ねんちゅう）に子どもがいて、これから上富小に通う娘がいるんですけど、私は統廃合する、しないというのは行政に従おうかなと思っています。

今現在の年中の子どもの気持ちをお伝えしますね。私の娘が通う幼稚園が、大体男女比が8：2とか7：3とかで分かれてしまっています。

一応16人の2クラスあって、意外にいるかなというところですが、そこから上富小に通う子は6～7人です。でもその一つ下のクラスになると減っちゃって、さらに下だともっと減っちゃって、いう話は先生から聞いています。

なので確実にこの地域の子ども数は減っているよ、というのが先生からのお話です。

うちの娘だけの意見ですけど、上富小も近いからいいんですけど、三芳小に行ったらお友達がたくさん増えるよね、お友達は多い方がいいって言っています。5歳児の意見なので、教育云々というのはわかっていないですが。

あと、保護者の意見で、上富小と三芳小で揺れているんだったら、どっちかに通うっていうふうに使わせてもらいたいっていう意見もあって、うちは上富小の方がずっと近いし、通うにも安全なんですけど。

もし三芳小と一緒にあってスクールバスが出るとすれば、スクールバスを出してくれるのはありがたいよねっていうのが親御さんの意見です。

で、違う方で、スピード感が足りないなっておっしゃっていた方がいたんですけど、私もそれはすごく思います。いま年中で、つぎもう年長で、その次は上富小に入学するようなので、そのときにどうなっているのかはすごく気になります。娘も不安がつて、5歳児でもそれは理解できている。また、実際に子どもを育てている方の意見としてご紹介させていただきました。

あと、これは私の意見ですが、この前1月末に説明会があってその資料がまとまってないっていうのはちょっと遅いなって思います。

そこでいろんな意見が出たんですけど、じゃないと、いろんな地域の方や年齢の方に

ご理解はいただけないのではないかと。

通う当事者は子どもたちなので、子どもの意見を一番は大事にしてもらいたいなと思います。周りの大人もそれを応援してあげる形にってもらいたいなと思っています。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。

まだご発言されていない方、はい、どうぞ。

【地域・住民・その他】

今回議会傍聴された方は分かると思うんですが、6:8で否決になったんですよ。それが何かって言ったら、説明不足だったんですよ。これは議員の方も言っています。

町はそれでこういう形で説明すればいいんだっていう。こういう説明では、9回と言いますが、やはり乱暴ですね。資料ももっとわかるように、前回の会議で言われたことを次の会議にかけるような準備もしてもらって、それで説明会に来たくても来られなかった人もわかるように準備してもらいたい。

要するに、まだ早いと思う。

12月議会で否決されたものを慌てて上程してっていうのはどうかと。先ほど女性の事務の方がまだ検討と言っていたけれども、町長今日いらして、オブザーバーということだけど、次の廃校になったあとのことも頭にあるんだろうから、もう決まっているんだったら教えてもらいたい。

(町長)

すみません。

オブザーバーですけど、発言していいですか。

皆さん今日はお忙しい中こうしてお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。今日はオブザーバーとして、皆様の意見をちゃんと聞いておきたいということで参加させていただいております。

この統廃合については、担当者から説明があったように、まずは子どもたちの教育環境ということを考えて、少人数学級ではなくて多くの子どもがいたほうが良いということで、学校再編等審議会でもずっと議論をしてきました。私自身もその考えは理解できます。

前回 12 月議会では上程をさせていただいたんですけれども、議員の皆様から少子化は進むので理解はできるが、住民への十二分な説明がないということでした。ここで改めて説明会を開催させていただいています。

一方で保護者の方の意見を聞くと、ここには地域の方も大勢いらっしゃいますが、やはり子どものことを考えると「統合というのは大事なんだ」というご意見もありまして、そこもしっかりと踏まえて、最後我々としてはしっかりと考えて、上程をするかしないかということを考えていきたいと。

皆さんの意見も聞きながら考えていきたい。ただし、先ほどのご発言で「スピード感」というお話もありましたので、あまり心配をおかけしても良くないので、そのところを踏まえながら考えていきたいと思っています。

また、教育に関するだけでなく、まちづくり全体に関することも様々なご意見をいただきました。

町づくりというのは「総合計画」があって、富士見市・ふじみ野市・三芳町で、2市1町で都市計画があってですね、市街化調整区域とかいろんな計画がたくさんございますので、それとの整合性とかも考えないといけない。この地域は世界農業遺産の認定を受けて農業を守る地域なので、ある程度開発を抑えるようにということもあるので、簡単にいかない部分もあるんですけど、人口減少が進む中で、やはり魅力あるまちをつくって、多くの方に住んでいただいて、よいまちをつくっていきたいと考えております。

今日の皆様のお一人お一人の意見はしっかりと聞いて、今後の政策に活かしていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

今出たご意見の中で、この説明会になかなか参加できない方もいて、ということがありましたが、そうしたことも踏まえまして、実は今回町のホームページに動画配信ということで行ってございまして、こちらにいらっしゃらない方でも色々な方にご視聴いただいているのではないかと思います。

【地域・住民・その他】

あの、もし一緒になるとしたらスクールバスって話ですけども、例えば交通状態が混んでいたらどうなるかとか、子どものことですからちょっと遅れたりだとか、そういう時には父兄の人とやりとりをしてスクールバスを運営していくのかどうか。

(事務局)

スクールバスの件ということで、お答えいたします。

スクールバスについては、このスライドにお示しした内容ですすでに事業者と打ち合わせを行っておりまして、参考見積という形にはなるんですが、4社ほどお見積もりの方をさせていただきました。そういった中で、事務局の具体案というのもお示しさせていただきながら、実現が可能かどうかというところも事業者の意見も踏まえて案を検討してきたところです。また、バスの運行面の不安の声というのもいただいておりますので、実際に運行するに当たっては、例えば試運転をさせていただいて、停留所の位置の確認や、道路状況などを把握する、そういった対策も当然必要だというふうに考えております。対策もしっかりと行っていきたいと思っております。

【地域・住民・その他】

きちんとメモが取れなかったんですが、上富1区集会所に7:50に集合して、帰りは2つの時間帯。集会所までは親が送るとのことですか。

親の送迎も学校が一緒になると遠くなるわけですね。

結構親の負担が増えると思うんですけど、このスクールバスを通せば解決ではなくて、親がそこまで送っていかないといけないし、迎えに行かないといけない、冬なんて暗くなりますし、そのところをきちんと考えてくださっているのかなって。

(事務局)

統合すると保護者の足が遠くなるというご意見はこれまでも頂戴したところです。それについては、例えば近くの公共施設である中央公民館などの駐車場の空きスペースを活用したりとか、そういった対策をさせていただきながら、保護者の方の足の確保についても検討していきたいと思っております。

また、最初のご質問にありました1区集会所までの集合ということで、対象のご家庭からの距離を計算いたしまして、遠い距離のお子さんでも子どもの足で15分圏内くらいで着くかなという想定で案を作成いたしました。ただ、これはあくまで案ということで、集会所が決定事項ではございませんので、集合場所もどこがいいのか、学校準備委員会を通してしっかりと検証していきたいと考えております。

(事務局)

こちらの案といたしましては、集合場所までは通学班を編成して、複数の人数で登校

していく、そこで集合場所まで歩いていく、そこは安全面に配慮してというところで考えております。

【地域・住民・その他】

やはり気になるんですけど、先ほどの課長さんや町長のご発言で、統合ありきで進めているのかなと。議会で否決されて、統廃合が決まっていないういながら、資料では「小規模校解消のための」などと言葉を使われている。

どんなに教育方法が変わろうと、タブレットを使ったりだとかありますけども、根本は人と人とのかわりななんだと。

先ほど教育長がおっしゃいましたけど、子どもたちに一つの解を得るためにやっているんじゃないと、もうずいぶん前からグループ学習とかはやっていますけど。

少し話題はそれですが、今まで40人学級だったのが35人学級になって、やっぱりそれは人数が少ない方がそれだけ教育的効果が上がるということで、欧米諸国ではもう20人前後が常識だと。ついでに言えば教育費なんかもほとんどかからない。

地域が教育をどれだけ重視しているか、そういうところがあるわけで、小規模で人と人の関わり合いがある中でやっていくことは、一番に最重視しないといけないと。

小規模校解消ではなくて、小規模校を生かす方法を本気でやってもらいたい。実際に小規模特認校とかを行っているところが日本全国にあるので、決してできないことではないと。

一人一人の子どもを受け止めて児童理解ができるという環境を、やはり町として検討し、作ってほしいなと思います。現状の学級規模の中で子ども達を生かす教育がどれだけできるかといえば、正直なところまだまだ無理だなと。

小規模校を生かすことは考えないのか、検討課題の一つにあげてほしいと思います。

（事務局）

貴重なご意見ありがとうございます。

その小規模校自体の良さを考える必要があるということで、ご指摘がありました。

実は小規模校になりますと、教員の負担が増える、校務分掌と言って、例えば安全主任とか、ICT主任とかあるんですけど、教員の人数が少なくても校務分掌の数というのは学校で変わらないので、一人の教員が複数抱えながら学級経営をしている状況で。

【地域・住民・その他】

30年ぐらい、上富小ではその状況が続いていますよね。

（事務局）

はい、そういったところで、小規模のよさ、課題点というのをごさいまして、今回そういう中で、教育委員会として望ましい方向性をということで検討したところになります。

それから教師一人対子ども一人で丁寧な指導というところですが、ただ中規模校、大規模校でそれができない、子どもを丁寧に見とることをしていないのかと言うとそうではない、子どもたちは丁寧な支援はさせていただいておりますし、そうしなければならないというところがございます。

何よりも今、子どもたちに身につけさせなければいけない資質、能力、これを考えていったときに、望ましい手立てとしての学校再編を今回の計画として考えているところ、いろいろご意見があるかとは思いますが、ご理解をいただきたいと思います。

（事務局）

それでは、会議時間も2時間を超えまして、長くなりましたので、ご発言されていない方でまだ言いたいことがあるという方がいなければ、アンケート用紙に記入していただいてと言う形にしたいと思います。大丈夫でしょうか。

ありがとうございます。

それでは、本日の説明会は終了とさせていただきます。